

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつる
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	さつま町
記入者名 (管理者)	濱田千穂子
記入日	平成 22 年 2 月 26 日

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員・利用者の方との話し合いにより、明るく楽しくをモットーに、家族・地域との触れ合いを大切に開かれたホームを目標としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昼食前に職員・入居者共に理念の唱和を行い意識付けを行い、日々の生活に生かしている。また、理念に近づけるように、職員間で話し合いを持っている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族・面会者が、目に付くところに理念を掲げている。機会があるごとに家族には、家族と共に築くホームであることを伝えている。また、母体の病院にパンフレット配布してもらっている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設病院受診の帰りに立ちよってくださったり、季節の野菜・漬物・果物等の差し入れがある。また散歩時、近所の方との会話・高齢者アパートの方たちとの交流会も定期的にある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の民生委員さんよりサロンあじさいへのお誘いがある。	○ 中学校の職場体験の受け入れ・運動会見学花見等計画している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人全体として、高齢者連絡協議会の依頼で「お年より見守り隊」の一員として、高齢者が、事故・詐欺の被害にあわないように、呼びかけたり見守っている。また、職員が、公民館サロン「あじさい」にボランティアで出席している。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が外部評価の結果について把握しており、改善に向けて取組んでいる所である。自己評価は、ミーティングで時間をかけて話あって、自己反省の場にもなった。今後こういうことがやりたいと前向きな意見も出た。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に地域代表・家族・役場職員・事務長を含めて開催しており、利用者状況・事故・苦情・行事等の報告を行っている。出席者全員の意見をもらい改善に努めている。評価への報告も行っている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者の交代に伴い役場に書類提出に行く機会があったり、実地指導時に疑問点について教えてもらったりしている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を開き、理解を深めている現在は、必要となる利用者はおられないが、必要時は、職員に説明しながら援助していく。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の身体拘束委員会主催の研修の中で学ぶ機会があった。身体的虐待はないが、言葉による虐待など日々の仕事の中で何気ない一言が、相手を傷つけていることもあることを改めて認識できた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退去時共に十分な説明を行って納得した上で判断していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に、困りごと、苦情、不満、希望の確認を行っている。また、法人の相談員の紹介も行っており、苦情等対応マニュアルに沿って迅速に解決できる仕組みがある。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に、日々の健康状態、金銭関係、園の行事等の報告を行っている、また、病気など必要時には、その都度電話での報告を行っている。連絡のとりにくい家族には、入金の際に近況報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、何でも言える関係作りに勤めており、来訪時など要望・苦情がないか伺っている。また、意見箱の設置や法人の相談員がおり相談できる仕組みをとっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時にみんなから意見を出してもらって話し合いで働きやすいように改善しているが、予算の関係上難しいこともある。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	最低限必要な人員の確保は、出来ている。必要時には、4人体制の勤務を組んだり、事務長が夜勤を行ったり、職員同士で快く勤務変更を行ったりできている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	長期就業の職員を中心に馴染みの関係が出来ており入居者の不安は、感じていない。法人内の部署移動交代時には、時間をかけ慣れてゆけるように配慮している。	
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	院内研修・外部研修や職員教育委員会の主催する勉強会が月1回以上あり学ぶ機会がある、またミーティング時にも短時間の勉強会を行っている。スキルアップ研修時は、勤務調整を行って、支援する体制がある。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ほかのグループホームと情報交換を行っている。	○ 町内の他のグループホームとの交流を行い横の関係を深めてゆきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	食事会を開催したり、懇親会を行ったりストレスを解消したり、話をする機会を作っている。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	ホームに足を運び、勤務状況を把握したり、愚痴を聞いてもらったり、働きやすい環境づくりに勤めている。ミーティングに出席されたり、出席出来ない時は、問題点を報告することにより運営者も一緒に改善につとめている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	事前に本人と会い、本人、家族より生活状況身体状況、認知状況などの聞き取りを行い、今困っていることや本人の思いを知り、本人や家族の思いを受け止め安心して利用をしてもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には、事前に本人・家族に面談を行い。これまでの本人の状況、利用に至るまでの経緯、家族の苦勞、不安や思いを伺った上で話を進めている。また、ホームの基本運営方針を説明し納得した上で利用してもらっている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている	ホームの入居は、法人の相談員を含めて相談を受 けることになっており、本人、家族の気持ちを 伺った上で何が必要か、どうすれば解決できるか を一緒に考え、本人家族に判断をお願いしてい る。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用す るために、サービスをいきなり開始するのではな く、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染 めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来る限り本人にも事前にホームを見学に来て いただいて納得して利用していただいている。家 族の事情などで入居される方には、安心して園に 慣れていただけるように職員が声かけ仲間作りの 手伝いを行っている、また、面会の機会を多く持 てもらうようお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側される側ではなく一緒に笑ったり、 怒ったり、泣いたり一人の人として付き合っ ており、考え方の違いも認め合える関係である、 職員の愚痴を聞いてもらうこともある。「おかげ さま」の関係である。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	利用者の健康状態・日々の様子や行事等の報告 を兼ねて手紙を出したりして園での生活の様子 を家族にお知らせし安心してもらう。健康状態 が悪いときなど家族に面会をお願いをしたり、 病院受診をお願いしたりして、本人に安心して いただけるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援してい る	本人の希望時や盆正月など外出や外泊をお願 いしたり、本人が不安に思っていたりすること がある時、家族に電話をお願いしたりして心配 事の解消を行っている。また、行事のお誘い をしたりしてなるべく園の方に顔を出してい ただいている。	○	今後も家族会・行事へのお誘いを行い家 族と一緒に支えてゆけるようにしてゆき たい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人希望により宗教の継続のために外出援助したり、墓参り・仏壇参りに帰られたりしており本人の希望に沿うように援助している。敬老会・リハビリ室で地域の人たちと話をされている。	○	家族との交流ばかりではなく外出・行事 公民館「サロン」の参加をとおして地域 の方との交流も行ってゆきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう に努めている	食堂の前の2つの居室に入居者が集まりコタツに入りテレビを見たり話をされている。またお茶の時間 に会話をされたりレクレーションをしたり、時 にはけんかもある。また、足腰の弱い方に手を引 いてくださることもある。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な 関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断 ち切らないつきあいを大切にしている	以前、入居されていた家族の方が散髪に来てくだ さったり、年忌が過ぎましたと挨拶に来てくだ さったり、野菜漬物の差し入れにきてくださったり といまでもつきあいがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討 している	本人や家族に生活歴、身体状態、認知状態等を聞き 取りをおこなったり、日々の関わりの中で何が 本人にとって大事なことを職員全員で話し合っ ている。また、本人の気持ちを大事に関わりを 持っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居以前の居宅から情報提供を受けたり本人家族 から聞き取りを行ったりして情報を集めている。 また、一緒に生活する中での気づきもある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日を通し生活のリズムや、暮らし方、考え方を 理解し、本人の能力にあった援助を心がけてい る。日課やレクレーションも本人の気持ちを優先 している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望を取り入れケアカンファレンスや状況変化時に検討したり計画更新や変更時も職員全員で話し合い検討している。また、家族訪問時に希望を伺ったりして計画作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化時は、家族へ連絡を行っているため計画の変更も合わせて説明している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々健康状態、食事量・排泄状況・面会等日々の様子や、状態変化など記録に残している。また、必要なことは、業務日誌に記録し全員が共有できるようにしている。計画変更の必要があれば、その都度検討している。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の病院に状態変化時に受診にいたり、リハビリでマッサージを受けたりパワーリハビリを行ったりして筋力アップにつながっている。また、交流の場にもなっている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くの公民館長・民生委員・駐在さんに運営推進会議のメンバーになっていただき普段から関係作りをしており、災害時、行方不明時などは協力をお願いしている。また、消防分団の方が視察にきてくださり、避難経路等の助言をいただいている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や家族の希望があれば、ほかのサービス事業所のケアマネジャーと連絡をとり転居先をさがしたり、入院先を探したりしている。また、本人の希望時訪問散髪をおこなっている。	



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	状況に応じて必要時は、市町村や関係機関に相談している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医による定期受診・状態変化時の受診を受けられるように家族と協力して通院介助を行っている。また受診結果を家族に説明している。必要があれば、医師より直接説明をしていただく場合もある。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の認知の状況により対処したり、主治医への相談したり助言をもとめている。必要と判断されれば、精神科の受診も行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に看護職員を配置しており、利用者の健康管理状態変化に応じた支援が出来るようにしている。又、協力医院の看護師により昼夜を問わず支援体制がある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後の状況確認や治療期間を把握し退院から、再入居時に家族や本人に不安を与えないように連携をとっている。又、看護職員を通じて、日々の健康状態など必要な情報を共有している。職員が頻繁に見舞いに行ったりしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況により主治医へ相談し指示を受け家族へ連絡を行い意思確認や今後について確認を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や本人の意思や希望により対応し、利用者の状況により家族の意思確認を再度行っている。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者・家族の意思を確認し必要な情報を関係機関へ提供したり必要によりケア会議を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の勉強会を行ったり、職員が、プライバシーに配慮した、言葉掛けや介護を心がけている。又、守秘義務についても全員が理解している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせた声掛けを行ったり、利用者の声に耳を傾けたり、職員側の都合で物事を進めるのではなく、本人の意思を確認し、本人のペースで暮らせるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課通りではなく希望に応じさまざまな事に対応するように心がけているが、全てに応じられるわけではない。その時は、出来ない理由を説明したり、後日できるだけ希望に沿うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの服を自分で選ばれたり、散髪は、利用者の希望により美容師へ依頼し訪問サービスを受けている又、個人的に行きつけの美容室に行かれている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を献立に取り入れたり、行事食を作ったり、野菜の下ごしらえや盛り付け下膳等利用者の能力や自発性を尊重し一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は、病気の制限がない限り個人の希望に沿うようにしている。また、管理が出来ない場合は、預かり少しづつ渡している。又、おやつのときに季節の果物・お団子等おだししている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンに添って、誘導を行ったり、自力排便が困難な利用者には、水分摂取を促したり、運動の声掛けを行ったり、主治医と相談して薬を処方してもらい気持ちよく排泄できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉のお湯を使用しておりとても喜ばれている。入浴日程は、あるが本人希望時には、対応しているまた、失禁時、皮膚疾患時はその都度対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中、体操・リハビリ・散歩などを行い生活のリズムを整え、夜間充分な睡眠が取れるようにしている。また、昼間、短時間の昼寝を行っておられたり、疲れたときには、休息が取れるように配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好む活動を促したりそれぞれの得意なことをして頂いたり、趣味で工作をされたり、花の手入れをされたりしている。又、散歩に出かけたり花見や季節の行事を楽しみにしておられる。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば散歩をかねて買い物に行ったりしている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、散歩に出かけている。又、近くの店に買い物に行ったりしている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事で花見にいつている。	○ 今年、行事の見直しを行い、4月には家族会をかねた花見を計画している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	どちらも本人の希望に添って支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間制限がなくいつでも気軽に訪問していただいている。訪問時には、居室にお茶を運んで利用者と一緒にゆっくりと話をしてもらっている。	
(4)安心と安全を支える支援			

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の勉強会に出席し学ぶ機会を持ち、身体拘束による弊害を理解しており、身体拘束のない介護を実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけず観察を強化し徘徊のある方は全職員が、認識し対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じリビングで食事を作ったりしながら、さりげなく観察したり、部屋におられる方には、時間を見て、声掛けに言ったり様子を見たりしている。夜間は、見回りを頻回に行ったりして安全確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の能力や認知能力により管理の必要な物は本人家族の了解を得て管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の身体状況等により危険性をケアカンファレンスで話し合ったり、状態に合わせて必要な介助や見守りを行い事故防止に努めるようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が消防署が、実施する普通救命講習に参加し救命技能を学んでいる。緊急時急変時は、協力病院の医師看護師に連絡する体制になっている。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、 気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結 び付けている	毎日の健康チェックにより異常な変化があれば病 院受診や看護師に相談する等対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解しており、服薬 の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容を全職員が確認出来るようにし ている。与薬ミスや飲み忘れがないよう確実に服 用できるように支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予 防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働 きかけ等に取り組んでいる	利用者により便秘傾向の方には、水分補給や適度 な運動を促したり食事摂取状況を観察し対応して いる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしてい る	毎食後歯磨きの声掛け見守りを行っている。又、 出来ない方には、介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の立てる献立に添って調理を 行っている。普通1500カロリー・水分150 0CC個別に糖尿病食・きざみ・おかゆ等身体状 況に合わせた食事の提供を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、 実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり症状や疾病により必要な 対応を主治医より指導を受けている。法人に感染 対策委員会があり蔓延を防ぐ方策を取れるように なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の洗浄・消毒・使用前の取り決めがあり調理担当者が責任を持って行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を飾ったり気持ちよく入っていただけるように清潔感を大切にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、桜餅・ちまきを食べたり、ゆず湯・菖蒲湯など季節を目で感じ舌で感じ匂いで感じてもらっている。また、利用者の写真・作品などを展示し喜んでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は、玄関で日向ぼっこを行ったり部屋に遊びに行ったり、リビングで過ごしたり、一人で部屋で作品を作ったりと、思い思いに過ごしておられる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使い慣れた物を持ち込んでおられる。又、必要な物があれば、家族に電話して本人希望の物や趣味の物も持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペースの換気や室温調整を行っている。入居者の状況にあわせ居室も見回りにより室温調整や換気も行っている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況や認知能力に応じて室内の物品の配置を行ったり、本人と一緒に、環境整備を行ったり、必要物品の管理を行って、本人が、自立した生活が送れるようにしている。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋には、本人が解りやすいように名前を掲示したり、場所の認識のない方には、誘導をしたりして、本人が、混乱しないようにしている。また、職員の声かけにより、出来ることは、本人にしている。	
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	縁側で日向ぼっこを楽しみながら、入居者同士話をされたり、プランターに花や野菜と一緒に植えたり、手入れを手伝って下さったりして花が咲くのを楽しみにしておられる。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	③ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	② ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成13年に開設し9年目を向かえたグループホームです。90歳代が7名おられ平均年齢88歳という人員構成ではあるが、皆さんお元気で自分の足で歩かれ食欲も旺盛です。当ホームは、病院併設の利点があり、急病時は、24時間昼夜を問わず対応が可能です。また、休日以外は、リハビリに通いパワーリハビリをおこなったり、楽しみながら、機能訓練をされています。入居者、職員明るく楽しくをモットーにしています。